

# **Global Active Learning 2022**

Report

## 目次

はじめに	3
歴史のあるボストンの町と文化に触れる	5
世界有数の学術都市ケンブリッジ	7
ブランダイス大学	10
Campus Tour	11
Joint Class 1	13
Basic Statistics for Social and Political Analysis	14
Joint Class 2	15
写真集	16

## はじめに

武石 智香子

2017年度から開始された Global LEAP の夏季集中科目としてされた「グローバルアクティブラーニング」は、2021年度から「グローバル遠隔ラーニング」とのセット履修科目としてグローバル FLP に移設されたが、初年度の2021年度は Covid-19 のために海外への学生引率を行うことができなかった。2年度目の今年度、2022年度に、はじめて米国への学生引率を実現するとともに、米国引率に慣れているはずの私も、New Normal の米国への渡航はあたかも「はじめてのおつかい」のようだった。

外務省による米国の感染症危険レベルや、米国への入国要件など、科目の始まった4月には渡米の実施可能性が大変危ぶまれる状況だったものの、外務省が2022年5月26日に米国のレベルをレベル2の「不要不急の渡航はやめてください」からレベル1の「十分注意してください」に引き下げ、米国も空路入国者への新型コロナ検査義務付けを6月12日から撤廃したことから、私たちの渡米の準備が始まった。現地での学修内容の準備も、これは例年のことであるが、相手先のブランダイス大学の履修生が決まるのが新学期のはじまる8月末以降であることに加えて、新しい科目の枠組みでの初めての渡航であることで、直前までバタバタすることになった。

困難な状況にも拘らず、結果的に充実した日々を送ることができ、無事に帰国までたどり着けたのは、学生や引率教員の安全確保のために奔走してくれた全学連携教育機構事務室その他の事務室の作ってくれた安全な環境の下で、与えられた係以上に自主的に自らの役割を見出して力を発揮するようになった学生たち自身の努力のおかげである。学生に与えられた係は以下の通りだったが、コロナ関連で出入国に要する煩雑な手続きは私が教わる側となった。

表1 参加学生とその係

役職	姓（英語表記）	名（英語表記）	姓（漢字）	名（漢字）	学部	
指導教員	TAKEISHI	Chikako	武石	智香子	商学部	
学生	しおり	KOUDA	Himika	幸田	飛美花	法 2
		OGAWA	Fuminori	尾川	史典	経 2
		NAKAJIMA	Hiroaki	中島	弘明	総政 2
	名簿	SHAO	Yizhi	邵	溢之	法 2
		SATO	Minami	佐藤	みなみ	理工 3
	会計	SHIMADA	Yuzu	島田	柚	総政 2
		OKOSHI	Sora	大越	そら	総政 2

表2 出入国の準備

往路：日本→米国	
	ワクチン接種証明書アプリ（デジタル庁） 以下ワクチン証明書
	VeriFLY アプリ（Daon 社）
	電子渡航認証 ESTA
復路：米国→日本	
	MySOS WEB（アルム社）
	Visit Japan WEB（デジタル庁）

現地においても一軒家のワンフロアでともに寝泊まりする Airbnb の宿において、それぞれが配慮し合い、カバーし合い、日々、自主的な活動が増えていった。

何より素晴らしかったのは、科目の中心的学修目的である、ブランダイス大学の学生との交流である。ブランダイスの日本語学科の先生方、学生さんたちによる至れり尽くせりの準備と大変に温かい歓迎を受け、本学側の学生も全員いきいきと積極的に交流をすることができていた。学生たちの力には本当に驚かされる。

Einstein が言ったと言われる言葉に “I do not teach anyone. I only provide the environment in which they can learn.” というものがある。グローバル遠隔ラーニングにつながる今回のグローバルアクティブラーニングであるが、実質中 4 日という現地での活動は単にきっかけでしかありえない。しかし、学生各自の大きな成長につながるきっかけになって欲しいと願っている。

## 歴史のあるボストンの町と文化に触れる（9/12 午前）

中島 弘明

午前中はボストンの土地勘を養い、自由行動につなげるため Trinity Church、Old South Church、Boston Public Library、Faneuil hall、Quincy Market や New England Aquarium などの主要な観光地を見て回った。

Trinity Church と Old South Church は当時の建築技法を駆使した貴重な建造物であり、内部を見なくてもある程度満足できるほどの物だった。ボストンの町並みは現代的なガラス張り建築とレンガ造りの共存が一つの魅力であると感じた。道を歩いていると俄に現れる荘厳な教会は時差による不調を吹き飛ばすほどの衝撃があった。

Boston Public Library はアメリカ最古の公立図書館システムで、一般に無料で公開されている。設立当初、知識人が資金を募って設立した由緒ある図書館。アメリカの図書館の中でも最古で有数の蔵書冊数を誇る。

Faneuil hall は風見鶏がバツタの形を模していることで有名である。独立戦争当時、Faneuil hall の風見鶏は何か、という合い言葉で見方を判別していたという逸話が残されている。観光とショッピングを兼ねた

Prudential Ctr では、物価の高さを身をもって知らされた。ただでさえ円安が進行している中で、物価上昇率も日本よりも激しいという事前情報を経験として感得できたことは大きな収穫たり得るなと感じた。

移動中にボストンコモンを通過した際、メンバーの一人が財布をぬすまれた。いつスられたのか気づかない手際の良さに脱帽。チアーズで有名なお店や、ダックツアーズの水陸両用の観光車両などを横目に見ながら、

Quincy Market に行き昼食をとった。個人的、初海外でのレジ体験。受験と同等の緊張感と戦いながら、頼んだ商品はチーズサンドウィッチ。二日目にして、脆弱な私の胃腸は悲鳴を上げていた。

午前の最後に Aquarium という駅にある水族館を一目見た。アクアリウムでは路上サックス奏者に会った。彼は私たちが日本人だと察すると、日本の曲を演奏し始めた。エンターテイナー魂が素晴らしいなと感激した。リクエストではなく能動的に曲の変更をするあたりにチップ文化の有無が介在しているのではないだろうか。それ以外にもセブンイレブンがアメリカにあたり、排水溝や消化管などのデザインが映画で見たことのある物だったり、文房具が日本の会社の物だったりと様々な発見をした。

## 世界有数の学術都市ケンブリッジ（9/12 午後）

佐藤 みなみ

お昼ご飯を食べた後は、red line に乗って Harvard 駅へ。



red line、Park St 駅にて

Harvard 駅についてからは、駅からすぐ近くの Harvard coop（大学生協）で買い物をしました。個人的には、Harvard のスクールカラー、あずき色の T シャツを買ってこいと言われていたので、あずき色 T シャツ探しに奮闘していました。。。海外大学のアパレルのデザインの可愛さと、豊富さから、大学のブランド力の凄みを感じました。

Harvard coop で大学のブランド力、規模の大きさを感じた後は、実際に Harvard 大学のキャンパスツアーに参加しました！

☀ Class of 1857 Gate ⇒ Wadsworth House ⇒ old yard ⇒ Mass Hall ⇒ Harvard Hall ⇒ Science Center ⇒ Memorial Hall ⇒ Memorial Church ⇒ Widener Library ⇒ Statue of John Harvard  
という流れで、Harvard 大学の学生さんにキャンパスツアーをしてもらいました。



(以下サイトから、キャンパスマップも見れるのでぜひ！！)

<https://prodsmap.cadm.harvard.edu/portal/apps/indoors/index.html?appid=d71c69bc4b014b40b730d90880fba3a0#>



📍Johnston Gate



📍Memorial Church



📍Widener Library

キャンパスツアーでは、建物の歴史、現在の様子に加え、Harvardの学生の生活やカリキュラムについても説明してもらい、キャンパスを中心にした学生生活をありありと教えてもらいました。1年生向けの学生寮が、old yardというキャンパス内の大きな広場を囲むように広がっていたり、キャンパス内の広場にベンチがたくさん置かれていたり、実際にキャンパス内を見たことで、“大学に生徒の居場所がある”というイメージを持ちました。学生が主体的に所属することができる場所が確保されていることで、Harvard大学の生き生きした雰囲気が生み出されているのかなと、キャンパスツアーから思いました。



☞ キャンパス内の広場の様子  
カラフルなイスが置かれていて、なんとも情緒的

キャンパスツアーの出発前に近くのカフェで待機していたのですが、そのカフェのテーブルには、直接、チェス盤がデザインされていました。これもただのデザインではなく、実際にチェスをしている2人組もいて、試合をのぞき込む人、気にせずコーヒーを楽しむ人、おしゃべりする人など、カフェにいる人たちからも、ケンブリッジの人々の日常が垣間見れたような感じがします。

ケンブリッジが世界に誇る学術都市であることは、都市の中心に位置する Harvard 大学の存在に大きく寄与されるのかも、と思いつつも、その場所にいる人々の営み、数々の歴史的な建築からなる豊かな街並みが相互に働き合って、都市全体が活着しているかのように街に新しい文化と、豊かに培われてきた文化を繋ぎ、新たな価値を紡ぎだしているようでした。

## ブランダイス大学 (9/13 午前)

邵 溢之

9月13日の午前はブランダイス大学にて Introduction to International and Global Studies の授業を受けました。



その授業では The construction of the post-world war Two and cold war, the international architecture. The triumph of Liberalism. についての講義を聞きました。この講義では、ソビエト連邦崩壊後のアメリカ合衆国の覇権(hegemony)に焦点が当てられていました。アメリカ合衆国のような巨大覇権国家が小さな力の弱い国家を実質的に支配してしまうという状況が問題視されていました。

授業内で特に印象的だったのは、生徒の質問がタイミングを問わず積極的に行われていたことです。また、質問が的確であり、授業内容から外れずに学生たち自身の興味関心に結びつけられた質問でした。日本での授業とは違い、双方向のコミュニケーションが授業内でスムーズに行われており、これによって授業を受けているほかの生徒たちの理解度もより高いレベルに成長できているように感じました。また、授業後にもすぐに生徒たちの質

問希望者で列になっていたのも印象的でした。教授と生徒の距離が近く、とてもよい環境ができていると感じました。

Introduction to International and Global Studies の授業の後は、キャンパスツアーをしてくださる生徒の方々と合流しました。早速友達ができたといい人もいたので、とても有意義な時間を過ごすことができましたと思います。

## Campus Tour (9/13 昼)

島田 柚

今日はボストン都心から少し離れたところにあるブランダイス大学のキャンパスツアーを現地の学生の方々にしていただきました！ブランダイス大学はボストン近郊から少し離れた場所に位置する緑豊かなキャンパスで、勉強施設のみならずアクティビティを楽しめる施設も非常に充実しています。キャンパスツアーをしてくださったのはブランダイス大学で3年生レベルの日本語を学んでいる学生の方々です。どの方も気さくで優しく、何より驚くほど日本語が上手でした！！そのため、キャンパスの説明も非常にわかりやすかったです。

キャンパスツアーで最初に向かったのは図書館です。建物は大きく、内部は話ができるスペースと静かにするスペースで分かれています。デザインは青色で統一されていてとても素敵でした。次に向かったのが食堂です。食堂はカラフルな色合いの席がたくさん並んでいて、楽しそうに談笑しながら食事している学生さんと賑わっていました。食堂にはビュッフェ形式の食事があり、隣にはコンビニも併設されています。そして、食堂内でブランダイスの学生さんから最も人気なのは DUNKIN DOUNUTS です 🍩 ボストンについてから所々で見かけるお店ですが、ブランダイス大学内にもありました。このドーナツ屋さんはボストン発祥だそうです。お昼には実際に学生さんたちの協力を得て DUNKIN DOUNUTS を食べました！とても美味しかったです 😊

その後、ブランダイスにあるいくつかの寮を紹介していただきました。なかでも最も綺麗で設備の整っているものが SKILINE という寮です。ガラス張りで非常に洗練されたデザインの建物です。この寮を利用している学生さんの協力を得て特別に中に入れてもらいました。内部も清潔で整っているのはもちろん、寮の3階からはブランダイス

の綺麗な景色が一望できます ✨

次に紹介してもらったのは教会です。ブランダイス大学には chapel(教会)もあります。宗教によって分けられていて、多様なルーツを持つ学生に合わせた環境が整っていることが窺えます。

それからブランダイスにある2つのアクティビティ施設へ向かいました。1つ目は体育館です。ここではバスケットボール、テニス、ピラティスなどさまざまなアクティビティを楽しむことができます。2つ目はキャンパス内にある劇場です。劇場にいたブランダイスの先生が親切に内部を紹介してくださりました。ホールではちょうど FREE CLOTHES という古着を無料でもらえるイベントを開催していました。この劇場にはホールだけでなく、小道具を作る部屋、稽古部屋、衣装部屋など公演をするにあたって必要な施設が全て揃っていて感動しました！キャンパスを見学していて全体的に感じたことは、ブランダイス大学は環境面に配慮していることです。ゴミ箱にはリサイクルするべきゴミが詳細に示されていることや劇場でも使わなくなったゴミを再利用した道具がたくさんありました。

また、キャンパス内には旗をつけた小型の白いロボットが移動しています。これは食べ物を運んでくれるロボットだそうで、食べ物を注文した学生のところへ自動で向かいます。とても可愛らしいです ❤️ さらに、キャンパス内では所々でイベントが行われていて、先ほど紹介した FREE CLOTHES だけでなく、珍しい虫を展示するイベントもありました。芝生に小さいテントが張られていて、環境や生物を学んでいる学生が自ら捕まえた虫を展示していました。そこでも日本語が上手な学生さんがいらっちゃって虫について説明してくださりました。私は大きな芋虫 🐛 を手に乗せてもらいました！想像以上に大きくて驚きましたが、大人しくて近くで見ると可愛らしかったです。

上記に紹介した場所以外にもたくさんの施設を紹介していただき、非常に充実した時間を過ごすことができました

た。キャンパス内はアメリカならではの広大な土地を生かした広さで、施設も充実しており、建物のデザインも洗練されたものばかりでした。また、学生さんたちはフレンドリーな方ばかりでとても話しやすく、キャンパスツアーの間もキャンパスのことやお互いの話で盛り上がり、異文化交流を深めることができました。何より一番驚いたことは、学生さんたちは日本語を勉強し始めてから1、2年の方がほとんどにもかかわらず、日本語を話すのがとても上手だということです。それもキャンパスツアーや日常会話をスラスラできるほどでした。日本語を母国語としない人々と日本語で会話するのは新鮮で楽しかったです。それと同時に、学生さんたちの姿勢を見て私たちもこのくらい英語を話せるようになりたい！と語学勉強に対するモチベーションを高められました ✨

## Joint Class (9/13 午後)

大越 そら

ブランダイス大学のキャンパスツアーと昼食を通して日本語 3.4 年生レベルの学生と交流した後、午後に日本語 4 年生レベルの学生とのジョイントクラスに参加した。ジョイントクラスは後期に開講されるグローバル遠隔ラーニングの導入部分であるため、私たちがボストンに行った主な理由と言えるものであった。

ジョイントクラス全体を通して、中央大学の学生は英語で、ブランダイス大学の学生は日本語でお互いにコミュニケーションをとった。お互いに母語でない言語でコミュニケーションをとったため、相手の言いたいことを汲み取ろうとするような独特な雰囲気の流れが流れていた。

クラスは穏やかな雰囲気の中、自己紹介から始まった。名前や所属学部に加えて、思い思いに自己紹介をした。

その後藤原先生のご提案で、交流を深めるために円を描くように椅子に座って本題の SDGs に移った。まず最初に議論したのは、ブランダイス生が前から不思議に感じていたという「なぜ SDGs は日本国内で広まっているか」であった。この問いは事前授業で武石先生から伝えられていて、中大生間ではオンライン上ですでに英語で意見を共有していたが、実際に対面でブランダイス生の前で意見することは練習時とはひと味違っていた。しかしその雰囲気に負けずひとりの中大生が回答すると、その回答に対してブランダイス生がさらに質問や確認を重ねて元々の意見がより深くなり、違った角度からの意見も多く出たことで議論が白熱した。

その後ひとりずつ SDGs で興味のあるゴールを理由とともにいくつか挙げた。このセクションはお互いの問題意識やそこに至るまでの過程を認識しあい、グローバル遠隔ラーニングのペア決めの一助とするものだった。中大生、ブ



ランダイス生ともに周囲の考えを否定する雰囲気は全くなく、それぞれが自由に自分の考えを発信していて表現の自由が保障された空間を実感した。

その後に学生同士が自由に交流する時間があり、興味のある SDGs について議論したり、お互いの興味や問題意識を掘り下げながらペアを決めに向けて議論を重ねた。最初はほとんどの学生が異なる問題意識を持っていたが、交流する中で相手の興味に関心を示す様子が印象的だった。最後には全員がペアを決め、正式なメンバー決定と具体的なテーマ決定は次回のジョイントクラスで行うことに決まり、1 回目のジョイントクラスは終了した。

# Basic Statistics for Social and Political Analysis (9/14 午後)

尾川 史典

9月14日午後はブランダイス大学のジョイントクラス履修生（グローバル遠隔ラーニングの米国側参加者）である、Chris 李さんの受講している Basic Statics for Social and Political Analysis を聴講させていた。我々は午前中、2グループに分かれボストン及びその近郊を観光していたため、各グループで Commuter Rail（ブランダイス大学方面への列車）に乗車し、ブランダイスへと向かった。

講義はプロジェクタで資料を投影しながら展開され、前半は事前配布の論文等についての解説を、後半は統計の手法に関する説明を受けた。後半の統計手法に関する部分については中央大学の授業や高校以前の数学で、単独の科目あるいは分野として学習したことがある内容であったが、前半の社会・政策に特化した内容と同時並行で学習するというのは意外な進行であった。

また、ブランダイス大学の学生の方々は次々と質問を挙げており、また授業後もしばらくの間教授の周りに履修生が取り囲んでいるなど、非常に意欲的に学習していることが伺えた。日本では静かに講義を聞き、質問がある僅かな人数の学生が指導教員のところにいく程度であると感じている。米国の学生の学習に対する姿勢と積極性は私も非常に参考としたい。

なお、数名が改札トラブルなどの影響でブランダイス大学方面への電車に乗ることができず、ライドシェアサービスを利用してブランダイス大学まで来た。ただ、ブランダイス大学内で迷子になり、キャンパスツアーでお世話になった学生に連絡をとり案内してもらうことで（授業には間に合わなかったが）教室付近まで来ることはできた。多少のトラブルはあったが、彼らにとって貴重な体験となったと聞いている。また、トラブルつながりではあるが、私は12日の観光中にサイフをすられ、執筆している現在もまだ日本の運転免許証はない。海外旅行の定番ではあるが、来年以降の履修者は十分された方が良さだろう。

## Joint Classs (9/15 午後)

幸田 飛美花

午前中の自由行動ののちに、各自集合場所に集合し、みんなで通勤ターレールに乗り、何回目かのブランダイス大学を訪れた。ブランダイス大学の最寄駅まで日本語のクラスの学生たちが迎えにきてくれた。授業のある教室に着くまでの時間も各自ブランダイスの学生との会話を楽しんだ。授業の前には、ブランダイス大学のグッズが売ってある、中央大学で言う生協のようなショップへ行った。そこには、たくさんのブランダイス大学のロゴが入ったグッズだけではなく、枕や水筒などの日用品、Amazon や Starbucks のギフト券、さらには、使わなくなった教科書たちが売られていた。ブランダイス大学はボストンの郊外に位置しており、学生に聞いたところ買い物はほとんどオンラインショッピングですることが多いらしい。個人的にたくさん買い物をしたくなるほど興味をそそられたのだが、どの学生もそのショップで買い物することはほとんどないと言っていた。やはり、どの商品でも大学のロゴが入ってしまえば少し値上がりするらしい。

実質最後の対面合同授業では、秋学期のグローバル遠隔ラーニングでの合同プロジェクトに向けて、SDGs の目標について一通り理解した上で、各自が興味や関心を持つ分野について英語や日本語を使って共有し、意見を交わした。その議論を通して、秋学期の授業に向けてグループを作り、各グループで積極的にコミュニケーションを取り、遠隔ラーニングで取り組むテーマを決めた。

# 写真集

9/12 ボストン巡り



9/13 キャンパスツアー



↑ 図書館内部の様子



↑ 食堂の様子



↑ 食堂内にある DUKKIN DOUNUTS



↑ 食堂に併設しているコンビニ



↑ 大学内で最も綺麗な寮 SKY LINE



↑ SKY LINE から一望できるキャンパス



↑ chapel(教会)





↑劇場



↑劇場を案内してくれた先生とリサイクル品でできた人形



↑食事を運ぶロボットがキャンパス内を移動している様子



↑キャンパス内で開催されていた虫を展示するイベント

9/13 ジョイントクラス



自己紹介の様子



興味のある SDGs を発表する様子



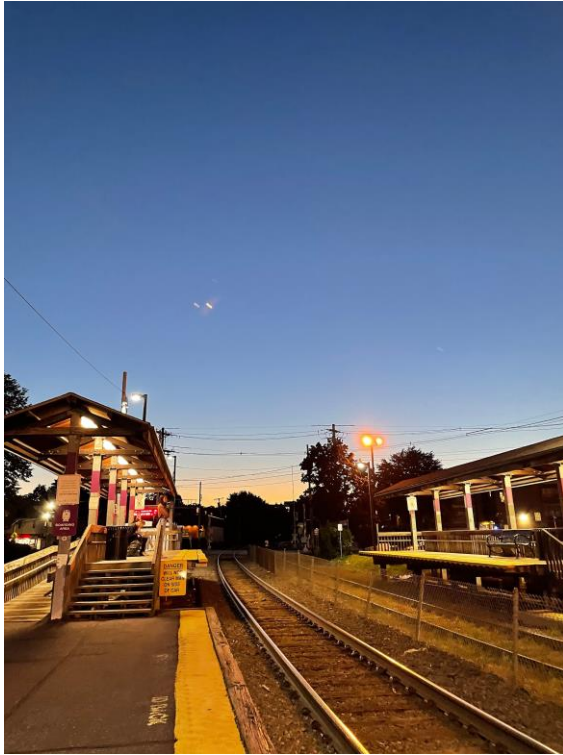
ペア決めに向け自由に議論する様子



Boston に到着して Airbnb で初めての食事🍴

ボストン茶会事件現場とかもめ





通勤ターレールの駅の風景



ブランダイス大学から駅に向かう様子